

【森のお話】
…コラム…

お花見はウソで決まる

森林総合研究所東北支所 生物多様性研究グループ

鈴木 祥悟

森林にすむ鳥は、樹木の葉を食べる昆虫を捕食したり、種子を分散するなど、森林にとって有益な働きをしています。しかし、なかにはサクラの花芽を食べて寂しいお花見にしてしまう鳥がいます。

それが、ウソという名前の小鳥で、冬から春にかけてサクラ（特にソメイヨシノ）の花芽を好んで食べます。

ウソはどのような鳥か

大きさはスズメ位で、鳴き声は「フイーフィー」と口笛に似ており、「ウソ」という名前も口笛を意味する古語に由来しています。

日本では、本州中部以北の亜高山の針葉樹林で繁殖し、東北地方でも夏期には八甲田、八幡平や蔵王

などで観察することができません。冬期には、山地や低地の林に数羽から十数羽の群れで生息しています。（図―1）



（図―1）ウソの雄（雌は頬から喉にかけての赤色部がありません）

どのような被害か

ウソは、昆虫も食べますが、草木の種子や木の芽を好みます。秋



（図―2）落下した多数の芽鱗片

期に亜高山や北方から山地の林に飛来しますが、そこでの食物が少ないと、公園や並木でサクラの花芽を食べたり果樹園でウメやモモの花芽を食べたりします。東北支所（岩手県盛岡市）の桜並木にも毎年十二月から翌三月にかけてウソが飛来し花芽を食べますが、飛来数が多かったり繰り返し食べられた年には寂しいお花見になります。ウソは花芽を選択的に食べ、芽はあまり食べないことから、樹体にはあまり大きな影響はないと考えられます。また、芽は芯の部分だけを食べるので、被害を受け

た木の下には芽鱗片が多数落ちています（図―2）。

被害を回避するには

ウソによる花芽の摂食を回避するためには、果樹などの殺菌剤であるペフラン（一キログラムを水十五リットルに加えたもの）を動力噴霧器で枝に散布することが有効と言われています。ウソの飛来状況や食べられた花芽の鱗片が地面に落下していないかなどを定期的に確認し、必要に応じて適切に対処することが大切です。また、これからは、山にウソの好む実や芽の付く草木を殖やしたり、サクラを植栽する際には被害を受けにくい種類や品種を選ぶなどの工夫も必要だと思われれます。

冬の鳥見（ハードウォッチング）

お花見の時期にしか注目されないサクラですが、冬のこの時期、双眼鏡片手に桜並木を散策してみたいかがでしょうか。紅色の頬をしたかわいらしい小鳥が枝に咲いているかも知れません。